

# ア！ 安全・快適街づくりニュース

## 「荒川・中川等の沿川を東京一番の街に」 ～川と街づくりのシンポジウム～ 11月5日（水）午後1時から「テクノプラザかつしか」で開催

東京東部地域は、かつては、荒川・中川・江戸川等の大河川の他、数多くの用水路があり、しかも、セルロイド人形など玩具を始めとした地場産業が発展し、水に恵まれた住みやすく豊かな地域でした。

ところが、工業の隆盛に伴い、地下水の過剰な汲み上げが進み、地盤が沈下しました。このため、雨水の溜まりやすい低湿地帯になり、高潮や洪水にも弱く、日夜水に悩まされる地域になりました。これに対し、河川や下水道などが整備され、今では水害を意識して生活する人は少なくなりました。

しかし、一旦沈下した地盤は元には戻りません。阪神・淡路大震災のように直下型地震が起きて、カミソリの様な堤防が切れたらどうなるでしょうか。川の水面より低い地域に暮らしている人々にとって、その時どのようにして避難するのか？どんな地震が起きたときも心配の無い堤防とは？など確かめておきたい疑問がいろいろあると思います。

この地域は、このような問題を抱えていますが、都心に近く、水辺環境にも恵まれ、他にない快適な素晴らしい街に出来る可能性があります。

江戸開府400年の節目に、この地域で川や水路が果した役割や地場産業の変遷を振り返り、どのようにすればこの地域を安全で快適な東京一番の街に出来るのか、皆さんと共に語り合う契機とするため、このシンポジウムが開催されます。なお、当日会場で「川と街づくり」のパネル展示も開催されます。



画：伊藤 良子

### シンポジウムのご案内

日時	平成15年11月5日（水） 午後1時～4時30分
場所	テクノプラザかつしか (葛飾区地域産業振興会館)
交通	京成電鉄「青砥駅」から徒歩12分
共催	NPO「ア！安全・快適街づくり」 葛飾区
後援	江戸開府400年事業推進協議会 東京商工会議所葛飾支部 東京消防庁本田消防署 国土交通省荒川下流河川事務所 (財)リバーフロント整備センター 東京都建設局河川部

### プロ グ ラ ム

開場 12:30 開会 13:00

#### 第一部 基調講演

講師 青山 侑（前東京都副知事）  
「川とまちの江戸・東京史」

#### 第二部 シンポジウム

○「安全・快適な街にするための川の役割」  
泊 宏 荒川下流河川事務所長

#### ○ディスカッション

△コーディネーター  
石川 金治 「ア!安全快適街づくり」理事長  
(元東京都技監・建設局長)  
△パネラー  
小矢部育子 日本女子大学住居学科教授  
信川 仁道 東京商工会議所葛飾支部会長  
泊 宏 荒川下流河川事務所長  
成戸 寿彦 帝都高速度交通営団理事  
(前東京都技監・都市計画局長)

## 第2回総会開催 5月13日 15年度事業計画・予算等承認

「ア！安全・快適街づくり」の第2回総会は、5月13日に西新小岩の大成化工（株）で開催され、15年度事業計画・予算、14年度事業報告・決算等の審議が行われ、満場一致で承認されました。

（詳細な内容は、本紙vol. 2参照）

当日は、40名（委任状19名）の会員が参加し、理事会・評議員会も併せて開催されました。

15年度は、「街づくりに関心のある人の結集」と「新しい街づくりの探索」を基本方針として、街づくりを推進することが確認されました。

このため、前年度に引き続き、街づくり勉強会の調査、研究を進めるとともに、スーパー堤防の必要性や有用性について、地元の皆さんに情報提供して理解を求めます。

特に、阪神・淡路大地震のような直下型地震が起きた場合に、川の水面より低い地域がどのようになるのかについて、住民の皆さんと語り合う機会を積極的に



活発な質疑応答のあつた総会

つくり、情報提供に努めます。

引き続き行われた懇親会では、杉浦都建設局理事、加邊国土交通省荒川下流河川事務所沿川再開発課長、柳澤葛飾区都市計画部長などから励ましの挨拶があり、盛会のうちに終了しました。

## 都が「防災都市づくり推進計画」改定 の考え方を発表—石川理事長意見提出—

東京都は、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ計画の改定を行います。改定にあたっての主な考え方は以下の通りです。

1. 危険度が高い地域で集中的に事業を実施し、早期に安全性を確保する。
2. 事業手法を見直し、合意形成を促進する。
3. 新たな制度・手法を活用し、耐火性の高い建物への建替え・共同化を促進する。

この考え方に対して、都は意見を募集しておりましたが、当NPOの石川理事長は、次のような意見を提出しました。

### 「防災都市づくり推進計画」改定に対する意見

◇「防災都市づくり」の柱の一つに災害時の避難路の確保として「幹線道路の整備」が掲げられています。しかし、下町低地では、地盤沈下で、幹線道路をいくら整備したり、沿道を不燃化したりしても、浸水していくなら逃げられません。大河川には、大きな地震がきても浸水が防げる幅の広い堤防（スーパー堤防、緩傾斜型堤防）が必要です。

◇ 0メートル地帯では、通常の満潮位でも、護岸が倒壊すれば水深2Mの水がドッと入ります。これは津波と同じ危険な状況です。

津波の場合は、地震発生後避難できる余裕があり、情報伝達がうまく行けば人命は助かります。護岸倒壊は、地震発生と同時に、全く逃げる余裕がありません。従って破堤は、津波以上に危険です。スーパー堤防を建設してください。

◇ スーパー堤防建設は、盛土のために沿川の住宅を一度壊す必要があります。この事業と同時に区画整理や再開発の事業を実施することにより、この地域一帯は安全で快適な街になります。スーパー堤防事業と街づくり事業を同時に実施してください。

◇ 具体的には「基盤整備事業」にスーパー堤防事業を入れてください。また「修復型事業」にスーパー堤防沿川地域整備事業を追加してください。

# スーパー堤防と街づくり」について要望 石川理事長、清治国交省河川局長を訪問

8月22日(金)、石川理事長は、国土交通省の清治真人河川局長を訪れ、「スーパー堤防と街づくり」について要望しました。



(石川) スーパー堤防は隅田川等でかなり整備が進んでいますが、大部分が大規模工場移転跡地の開発事業や公共施設の建設に合わせて造られていますね。

スーパー堤防整備の優先度の高い地域については、河川管理者が街づくりを先導し、主体的な役割を果たすべきだと思いますが。

(清治) 確かにそういうことは考えなければいけないですね。その際でも、その地域の関係者の合意により、堤防の幅が既存の道路によって区切られ、凹凸になったりするのはやむをえないと思います。

しかし、堤防そのものの安全性と街づくりの兼合いから、治水上必要と考える盛土の形状を検証する必要があります。

(石川) NPOを立ち上げ、現在スーパー堤防の整備と合わせて安全・快適な街づくりを推進する手法を研究しております。

このために「モデル調査」を荒川下流河川事務所、(財)リバーフロント整備センター、都の関係各局、地元葛飾区と本NPOがメンバーとなり実施中です。

(清治) 木造密集地域の解消とスーパー堤防の築造は、都市局、住宅局、河川局が協力して取り組まなければならない重要課題だと考えています。



石川理事長と清治国交省河川局長

(石川) 容積率は、事業の採算性にとって最も重要な問題です。

(清治) 容積率の決定に際し、河川区域（例えば堤体天端や法面）を都市施設として運用できないか考えたいと思います。

(石川) 安全で快適な住環境をつくり、地域の防災性を高めるためには、水辺の豊かな空間を生かすことが不可欠です。ぜひ推進しやすい方策を具体化されるようお願いします。

(清治) 都市局、住宅局、河川局が連携し、「緑の回廊構想」（水と緑のネットワーク形成）を実現すべく、来年度に向け、連携事業として取り組んでいます。

(石川) 今後もご支援をよろしくお願いします。

(清治) 先見性のある首長に期待するところが大きいので、首長にもPRしてください。

## 用語説明 **スーパー堤防**

スーパー堤防は、高規格堤防ともいわれ、大都市地域を背後地に抱える大河川において整備されるのが通常です。大規模地震あるいは計画規模を上回る洪水（超過洪水）により破堤し、壊滅的な被害を受けることのないように治水安全の向上を図ることを目的としています。

このため、スーパー堤防は、従来の堤防から市街地側（民地側）に、堤防の高さの概ね30倍の幅にわたり、緩やかな傾斜で築造されます。用地買収を行うことなく、地盤の嵩上げにより整備を行います。

市街地整備等と併せて整備することにより、市街地と河川空間を連続化し、水と緑の潤いのある空間、自然と調和した空間の整備を推進することができます。

大規模地震で破堤した例としては、1995年に発生した阪神・淡路大震災があります。大阪府の淀川の堤防が、地盤の液状化によって、堤防が大幅に沈下し、満潮時の潮位に対して危険な状況になりました。

計画規模を上回る洪水（超過洪水）としては、東海地方で2000年に激甚な水害をもたらした東海大豪雨（名古屋市で総雨量562mm、時間雨量114mm）があります。

# 魚ちゃんの泳ぐ街”・・・街づくり見学記

この夏には珍しく久々の快晴。気温もぐんぐん上がった。湿度も少なく爽やかな8月5日（火）午後1時から見学会は始まった。

上平井集会所に定刻に全員集合。葛飾区西新小岩三丁目町会の皆さんだ。鈴木一喜町長の挨拶の後、早速NPO法人「ア!安全・快適街づくり」の石川理事長よりパワーポイントを使って0メートル地帯の地震水害についての解説が始まった。

防潮堤が無ければ魚ちゃんが泳ぐ街、それが東京湾干潮面以下（AP±0以下）のわが西新小岩（葛飾区西新小岩五丁目から江戸川区西葛西二丁目の中川沿いを中心とした地域）である、と知って一同びっくりするやら、納得するやら・・・。

しかも、その原因は関東大震災後から昭和40年頃までの急激な地下水の汲み上げによる地盤沈下にあった。今はほぼ停止状態と聞いて一安心。

だが待てよ、大自然の力は人知を越える。えんえんと続く輪中堤が壊れた瞬間に津波のように水が浸入してくるからだ。

その対策はどうか。大河川沿いにぐるりと一定地域を盛土する高規格堤防（スーパー堤防）がそれだ。それをこれから見学しよう。

最初の見学場所、江戸川区平井七丁目地区に向かって、総勢25名が車に分乗。これから案内は、この道の専門家、荒川下流河川事務所沿川再開発課水田係長だ。



鈴木町長の挨拶

## 伊東 嘉海

スーパー堤防と街づくりを一体整備する利点と、地元の人達と話し合いながら進めているなどについて説明があった。同河川事務所のバスで次の見学地、同区小松川地区スーパー堤防に向かう。

パネルなどの資料を使って、防災拠点としての目的や経緯などについて説明。植栽された見渡す限りの千本桜に目を見張る。従来の葛飾や江戸川区にない全く違った風景が展開されている。

いよいよ小松川リバーステーションから「あらかわ号」に乗船だ。荒川河口から砂町南運河を通り、青海埠頭からレインボーブリッジを抜け、隅田川を遡上。ここからの説明は、東京都にバトンタッチ。スーパー堤防の完成個所と未施工個所ではあきらかに落差のある景観に驚嘆。大川端地区、新川・箱崎地区などの説明を聞きながら吾妻橋船着場で下船した。

上陸地点は、吾妻橋地区スーパー堤防。ここは墨田区と都市整備公団、アサヒビールの三者協力が功を奏し、土地利用や地区指定など建物等の取り扱いを大胆に変えるなどで墨田区の新しい顔が誕生。行政と文化の中心地域に生まれ変わった。

ここは吾妻橋。浅草の紅灯、アサヒビールの灯がみんなを待っていた。



魚ちゃんの泳ぐ?街とスーパー堤防を勉強

# 街づくり勉強会・スーパー堤防見学会

## —葛飾区西新小岩三丁目町会のみなさんの感想—

- ◇ 私達の町は、強固な堤防に保護されて生活していると思っていましたが、少しばかり不安になりました。スーパー堤防の仕組みを聞いて、また実際に現場を見学して、その重要性を痛感しました。  
この地域にスーパー堤防のモデル地区ができればより多くの住民が実感できるのではないかでしょうか。
- ◇ 私の住んでいる西新小岩三丁目は、川に近いということで、何年か前には大雨が降ると道路が川の様になり、床下、床上浸水は度々でした。  
上平井の下水処理場ができる、水捌けが良くなり今は安心ですが、この先どう変化していくか。0メートル地帯の怖さを痛感しました。  
スーパー堤防の見学地全体を見て、川と土手のバランスの良い空間がとても気に入りました。この町もそうあってほしいものですね！
- ◇ 0メートル地帯の説明については理解できましたが、身近に災害の体験がないためピンときませんでした。
- ◇ 0メートル地帯の説明については理解できました。すぐにスーパー堤防が完成することは不可能と思うので、現在の堤防を補強しつつ、順次完成に向けて進めていただきたいと思います。
- ◇ 西新小岩周辺地域の実態については、スライドで概要の説明を受けましたが、予備知識も無く、内容の理解も難しく思いましたが、専門家のお話を聞いて認識を深めました。
- ◇ 西新小岩地域には、蔵前橋通り付近に空地があり、工事ができる場所があるので、近隣住民の理解、説明ができると考えます。
- ◇ 平井七丁目地区を見て、近隣の人達の協力があったのだなあと感心しました。
- ◇ 平井七丁目地区の大規模の工事状況を見学し、国、自治体、一般住民が一体とならなければ実現し得ないと実感しました。また、私達の地域と同じように思われることから新しい防災街づくりの参考になることが多いと思われました。
- ◇ 小松川地区のスーパー堤防を見て、私達も何時かは考えなければ、このままではダメだと痛切に感じました。
- ◇ 当地には、小坪数の民家、零細工場等の移転補償の問題があるが、各々解決することが多数あると思います。
- ◇ 小松川地区等私達の想像を超える堤防に驚きました。安全な街づくりを考える上にも役立つものと考えます。
- ◇ 見学した中で、一番印象に残ったのが、小松川スーパー堤防でした。土手の階段を上がったとき、広々とした芝生の中、耐火構造の高層マンションが災害時の避難広場を囲うように立っているように見え、これなら安心だと思いました。  
私達の身近にも早く整備された街がほしいと感じましたが、自分たちの元気なうちにこうしたところに住むことが出来るかなと疑問を抱きました。
- ◇ とても勉強になり、有難うございました。
- ◇ 見学会を実施することは参考になるので良いと思いますが、曜日、時間帯に配慮してください。説明やパンフレットの資料等は大変良かったと思いました。
- ◇ 賛成、反対の意見があるので、町会主催はどうかと思います。平日開催では、若年者の出席が難しいです。集合・解散場所も考慮してください。
- ◇ 町会規模の見学会は大変有意義でした。工事中の平井七丁目や小松川地区の堤防等幅広く見学させて頂きましたが、時間も短く表面的な見方となった感じもしました。  
船上から荒川・隅田川沿いの堤防と街並み風景の観光ができました。
- 遠大で大変困難な事業ですが、親切にご説明いただき、どうにか理解できました。
- パンフレットについては、幅広い資料で、全体計画や実施状況がわかりましたが、資料は当日でなく、事前に配布いただければ多少の予備知識を持って見学でき、より効果的だと思いました。

今回企画実施のご面倒をいたしました関係の皆様、本当にありがとうございました。



## “住民の皆さんのが肌で感じ 自ら動き出す”活動を －徳倉副理事長に聞く－

編集：徳倉さんが、新小岩に来られたのは、どういう経緯ですか。

徳倉：大成化工は、大正14年、セルロイドの生地を生産するために設立されたのですが、昭和38年、セルロイドの衰退で会社が経営危機に陥りました。

この時、私は28歳でしたが、経営の建て直しを頼まれ、三菱商事を辞めて新小岩に来ました。

編集：どのように会社の再建を進めたのですか。

徳倉：燃えやすいので、しょっちゅう火事を出していたセルロイド生地の生産は、中止しました。

また、当時からこの辺りは、住宅が建て込み始めておりましたので、工場を継続するのは難しいと判断し、生産設備を移転することにしました。成田や旭の工業団地や中国の北京等に工場を建設していきました。

この結果、この新小岩に残ったのは、事務所、研究所、中間試験工場だけになりました。

編集：どのような動機で、新小岩の街づくりを考え始めたのですか。

徳倉：大成化工は、80年近くに涉り、新小岩で事業をやらせていただいております。他の地域で工場の建設を進める中で、この新小岩の土地を、今後どうしたら、お世話になった地元にお役に立てるのか考え始めました。

数年前、都には、「新小岩駅周辺地区（生活心モデル地区）育成整備計画」があるが、その構想の中に盛り込まれている「スーパー堤防」は、私の高校時代の同級生の石川さんの発案になるものだということ等が分りました。その後葛飾区、江戸川区を始め、東京都の都市計画を調査・研究してきました。

編集：現場もいろいろ見に歩かれたのですね。

徳倉：石川さんに会い、隅田川のスーパー堤防を見学し、新しい街づくりが進んでいることを知りました。それに引き換え、荒川・中川と江戸川に囲まれた0メートル地帯は、地震で今の堤防の一部でも決壊すれば、木造密集住宅は水没す

るという危険な状況にあることがわかりました。

編集：徳倉さんと石川さんは、高校時代に大水害を体験されてるそうですね。

徳倉：そうです。昭和28年に愛知県一色町で台風による大水害を経験しました。

洪水の恐ろしさ、洪水後の悲惨さは、経験したものでなければわからないと思います。石川さんがあれだけスーパー堤防の建設に情熱をかけるのも、この原体験がトラウマになっているのかもしれません。

編集：新小岩の街づくりについて、基本的にどのように考えていますか。

徳倉：この地域は、水害の危険という大きな問題を抱えていますが、半面、東京駅から僅か15分、水辺を活かせば他にない素晴らしい地域になります。

この水没の危機を未然に防ぎ、住民参加の新しい街づくりを行えないかという想いから石川さんと共にこのNPOを立ち上げることにしたのです。

編集：NPOも設立後1年余が経過し、これから住民の皆さんの理解を深めていこうとしていますが、具体的には今後どのように取り組むべきですか。

徳倉：住民の皆さんのが肌で感じ、自ら動き出すような活動をしていくことが重要です。

そのためには、この地域は、大地震があれば、大変危険な状況にあることをまず住民の皆さんに認識していただくことです。

つぎに、どうすればそれを回避できるのかを具体的な絵で示す必要があります。その絵に対して論議を重ねながら、いろいろな問題点を明確にし、これを一つ一つつぶしていくことです。

行政も予算が乏しいので、住民側からこうしてほしいという要望が出ることで、初めて手をつけようということになります。

このきっかけ作りと橋渡しの役割を果たすのが本NPOの役割だと思っています。

編集：今日は、大変ありがとうございました。

# 「スーパー堤防と街づくり」

## 第6回勉強会 (03.03.28.)

今回は、「芝三丁目の開発」をテーマとして、街づくりの研究をしました。

### ● 「芝三丁目の開発」

(講師：三井不動産K.K.六本木プロジェクト

担当部長 清水 弘之氏)

- ◇ 芝三丁目東地区は、港区が昭和63年に「重点的な街づくり推進地区」として位置付け、平成8年3月「芝三丁目街づくり基本プラン」を策定しています。本プランを上位計画として再開発事業等が実施されました。
- ◇ 本事業の特色としては、「街区高度利用型土地区画整理事業」(都心型ミニ区画整理)、「再開発地区計画」、「都心共同住宅供給事業」の三つの手法を組み合わせた国内初めての街づくりです。

なかでも、土地区画整理事業は、都心部における低未利用地の有効活用を図った東京都における最初の事例です。

- ◇ 芝三丁目東地区土地区画整理事業  
(面積2.3ha、事業費約17.3億円、)  
土地区画整理事業により都市基盤を先行整備
- ◇ 芝三丁目東地区再開発地区計画  
住宅と商業・業務施設の調和を図り、水と緑と潤いの空間を一体的に整備し、統一した街並み形成を図ることを目的として整備されました。
- ◇ 都心共同住宅供給事業  
住宅街区については、東京都の「都心住宅供給事業」の認定を受けて、252戸の住宅を実現しました。道路、生活環境軸など公共公益施設の整備を勘案し、容積率は400→670%に変更されました。
- ◇ 旧来の土地所有者が、長い時間をかけて根回しを行い、昭和57年に現地事務所を開設し、街づくりのアクションを起こしました。
- ◇ 土地区画整理、地区計画、都市計画の手続き等を同時並行的に進め、6年間でプロジェクトを完了することが出来ました。
- ◇ 地区外への転出者に対しては、買い替えモデルを作成し、権利者の意に添うべく、生活再建に努力しました。



## 第7回勉強会 (03.06.09.)

### ● 「六本木六丁目開発」

(講師：森ビルK.K.社長室上席副参事 太田慶太氏、  
同計画技術二部課長 金井聰氏)

- ◇ 本プロジェクトは、掘り起しづから完成まで17年を要しましたが、太田氏は、15年間に涉り本事業の推進に尽力しました。
- ◇ 人口密度の比較

東京都心4区	86人/ha
ニューヨーク市マンハッタン	242人/ha
- ◇ 超高層の意義  
こうした街を大きな街区に再編成したら、居住空間の確保等と合わせ、新たな都市空間を生み出すことが出来ます。都市空間を生み出し、緑化を進めると、ヒートアイランド現象に対処する有効な方策となり、気温が2℃低下すると言われています。
- ◇ 超高層を阻む要因  
東京新橋地区は、震災復興事業として土地区画整理事業を施行し、完了しています。しかし、街区規模が0.1ha程度で、道路幅員も狭く、土地の高度利用に限界がありました。土地の共有化・共同利用化への理解をいかにして高め、普遍化するかが街づくりの課題でした。
- ◇ 開発整備の経緯  
本地区は、昭和61年「再開発誘導地区」の指定を受けました。森ビル、テレビ朝日等が中心となり街づくり勉強会を立ち上げ、平成2年に再開発準備組合が発足し、権利者約500人のうち93%の同意を得ました。  
地域内には5町会がありますが、勉強会では地域特性、利害、価値観等の違いがあり同意を得るまで長い時間を必要としました。  
17年間で約1,000回、多いときには年間で100回、3日に一度説明会を持ちました。  
権利者約500人に對し、初期段階では3~4人が専属で折衝しました。昭和61年には6~7人、ピーク時には20~30人の体制を組みました。  
推進組織としては、施設計画、住宅計画、権利交換計画チームを編成し、事業の効率的推進に取り組みました。  
事業推進のために、仮住居を森ビルが100戸用意すると共に、権利者が見つけた住居については家賃を負担しました。

## ひとこと 「ア!安全・快適街づくり」理事長 石川 金治

### モデルの効用

### おしゃれ条例には魂を！

治水事業の進展で、ゼロメートル地帯の住民も水害を忘れて生活できるようになった。

また、「地盤沈下がなかった曾祖父の時代には、3階のフロアーが庭先の高さだった」と言っても若い人には通用しない。

このようなゼロメートル地帯が、一瞬のうちに海底都市になる危険を速く取り除くため、隅田川では「刑務所の堀」と揶揄された堅牢な護岸を張り巡らした。

これは緊急避難施設である。筆者等は本来的施設として、水辺に親しめるように堤防全面の斜面を緩くし、大きな地震が来ても浸水を妨げるように後背民地の地盤高を地盤沈下前の高さに復元する「スーパー堤防」建設案を昭和49年（1974年）に提唱し、それ以来この事業に携わっている。

親水性を高めるために、建設したばかりの堅牢な「力ミソリ護岸」を除去する案は、財政当局はもちろん河川管理者も当時としては躊躇する事案であった。それを解決したのは台東区長等の英断である。区は隅田公園の両岸を結ぶ桜橋を建設する際に、取り付け護岸を緩傾斜堤防に改築した。

わずか数十メートルの堤防であるが、住民の喜ぶ姿を見て、この事業の支援者が現れた。それは、大川端再開発事業者の住都公団と三井不動産である。この親水性の高い再開発が、また良いモデルとなり、沿川の再開発とスーパー堤防のセットは常識となった。このことは、新しい事業の推進にモデルがいかに有効であるかを物語っている。

先般、東京都は、「東京のしゃれた街なみづくり推進条例」を制定した。国策の「都市再生」は時限的で、かつ都心部のみを対象にしているため、東京再生には不充分である。それを補完するために設けられた条例であり、都民の発意で都市計画案を提出できる等革新的な内容になっている。

東京には「震災復興計画」や「戦災復興計画」等壮大な計画はあったが、実行されず、ただ水害防除や幹線道路延伸策等、平面的土地利用を助長する政策が取られてきた。

その結果、東京は世界の大都市では類例を見ないほど平面的な都市になり、市民は長距離通勤を強いられ、創造的、文化的生活を半ば諦めている。

21世紀の「脱工業社会」の担い手は、現在よりも創造的な仕事に従事する人が増加し、彼らには、職住近接の環境が望ましい。その解決策が平面的都市から立体的都市への変革である。

この変革には、都市再開発が不可避であり、現在住んでいる人も住みたくなるような街づくりが求められる。4月25日にオープンした「六本木ヒルズ」では、8割の住人が仮住居から戻ってきて、「住みたくなる街づくり」を見事に実現しており、これからの街づくりの良き見本である。

都の「おしゃれ条例」は、今住んでいる人が「住みたくなる街づくり」を基本概念として運用すべきであり、仏を造ったら魂も入れるよう心がけて欲しい。

〈これらの記事は、建築士会発行の機関誌「建築士」の“ズバリ直言”の欄に掲載されたものを一部修正したもののです。〉

## 街づくりボランティア募集

新しい街づくりに取り組んで見ませんか

会員には、正会員、特別会員、賛助会員の3種があり個人でも団体でも参加できます。

種類	年会費	入会金
正会員（個人）	1,000円	—
正会員（団体）	30,000円	10,000円
賛助会員（個人・団体）	10,000円	5,000円

街づくりに関心のある方のご参加を歓迎します。

発行 特定非営利活動法人  
**「ア!安全・快適街づくり」**

〒124-8535  
東京都葛飾区西新小岩3丁目5番1号  
Tel・Fax 03-3696-7480  
E-Mail tegami@banktown.org/  
ホームページ http://www.banktown.org/